土　岐　市　教　育　研　究　所
Ｔ　Ｅ　Ｌ　0572-54-1111　(内281)
Ｆ　Ａ　Ｘ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所　報　Ｎｏ．５３１
発行責任者　所　長　本 多　直 也
発　行　日　平成２９年　1月１６日
題　　字　山田　恭正　教育長

『お兄さんお姉さんと遊んで楽しかったよ』
～泉中学校家庭科学習～
撮影者　泉小学校附属幼稚園
梶田　梨津子　先生

どうぶつの　赤ちゃん

土岐市教育研究所長　　本 多　直 也

小学校1年生の国語の教科書に「どうぶつの　赤ちゃん」という教材があります。その中に「どうぶつの赤ちゃんは、生まれたばかりのときは・・・・」という文章があり、「生(う)まれる」という漢字を学習します。そして、3年生では「漢字の音と訓」という題材で同じ漢字でも幾通りかの読み方があることを学びます。

さて、この「生」という漢字。どんな読み方があるのでしょうか。

①生きる　②生まれる　③１年生　④一生　⑤誕生日は比較的スムーズにでてくると思います。そして⑥生クリーム(生ビール？)　までは何とかクリアできますが、更にと聞くと、難易度が高くなってきます。以後続くのが　⑦生(は)える　⑧生(き)一本　⑨生(お)い立ち　でしょうか。言われてみると納得します。そして、⑩生憎(あいにく)　⑪芝生(しばふ)となると「なるほど」と声が出てきます。

キャリア教育が定着してきました。自分の夢や希望を実現するための確かな見方、考え方を身につける時間となっています。中心は職場体験や職業講話がありますが、土岐市が小学校5年生を対象に行っている「夢の教室」もその一つです。全員が同じ体験をしながらも、一人一人がそれぞれの生き方や将来の自分像を描くところにこの学習の意味があります。

3年生国語(下)の教科書では音、訓読みを使った言葉を用いて一つの文章にする「音訓かるた」を作る教材があります。漢字の音訓を調べる中で、教科書巻末の「これまでに習った漢字」のページをみた児童は、「生」の読み方の多さに感動します。「生」の字は読み方の最も多い漢字だそうです。

「どうぶつの　赤ちゃん」はライオンとしまうまの赤ちゃんの大きくなる様子の違いを説明しています。新出漢字「生まれる」は、読み方の多さがその後の学習と関わって、いくつもの「生き方」があってよいことを示唆してくれるキャリア教育のスタートと思います。

教育課題研修指導者海外派遣プログラム実施報告

アメリカ合衆国の教育現場から

土岐津小学校　保母征之

１　はじめに

今回、平成２８年度教育課題研修指導者海外派遣プログラムに参加することができ、アメリカのワシントン、ニューヨークで２週間にわたり研修を受けてきました。このような貴重な経験の機会をいただいたことに感謝しています。簡単ですが、研修の様子を報告します。

２　州や地区の独立性

アメリカ合衆国は、州及び連邦区から成る連邦共和国です。したがって、州それぞれが独立した「国」という考え方があり、州によって教育システムは大きく異なっています。また、州の中でも市郡や学区によってそれぞれ独自の教育施策が展開されていることに驚きました。これは、日本のように公教育に対して国や県が経済的な担保をするのではなく、学区や校区内の住民が経済的負担を担っているところが大きいからです。国の教育に対する財政負担は、教職員への賃金を含め、教育にかかる費用の５％程度で、その５０％以上は地域住民から徴収する教育税（固定資産税）でまかなわれています。このため、校舎の建て替えなどの多額の予算を使用する場合は、住民に対して説明会を実施し承諾を得るなど「地域が学校を支える」繋がりは必然的に強くなっています。しかし一方で、地域によって徴収可能な予算額が大きく異なり、教育格差につながっていることが課題となっています。

３　多職協働が進む教育現場

日本の教育現場では、教員免許を持つ教員の割合が全体の８０％を上回ります。アメリカの教員は全体の６０％を下回り、４０％以上の教員以外のスタッフによる明確な分業体制が敷かれています。ほとんどの小中学校の学級には学級担任にアシスタント･ティーチャーが付いており、教材の作成や教科指導の補助をします。生徒指導や進路指導、それに伴う保護者対応はスクールカウンセラーを中心とした専門職が担うことが多いです。ランチや休み時間の補助員や清掃員もおり、給食指導や清掃指導は教員の役割ではありません。しかし一方で、児童生徒に対する影響力は低く、給与面も日本と比べると高くありません（日本における教員と児童生徒のつながりの深さは素晴らしい！）。また、離職者が多く、７年以上教職に留まる教員は全体の半数程度です。優秀な人材を確保し質の高い教育を提供し続けることが大きな課題となっています。

ＳＣの存在感が大きい

４　研修を通して

アメリカの各小中学校、高等学校を見学すると、様々な人種や宗教など多様な価値観が混在する教室の様子を目にしました。しかし、「どの子も置き去りにしない」ことを国の法律として定め、１人１人に必要な支援を講じていることに感銘を受けました。授業の様子も小学校においては、一斉指導のような形態は少なく、少人数グループごとそれぞれに学習したり、個別のカリキュラムに従って学習したりする姿が多く見られ、個を大切にしている教育が現場でも展開されていました。学校の役割を明確にしながら、他機関とも密接に繋がり、「分業」と「協働」のバランスを上手く保ちながら教育が推進されていました。

フォートリー　ミドルスクールにて

２週間にわたるアメリカの研修はとても充実したものでした。研修してきたことは、即現場の仕事に役立つことばかりではないかもしれません。しかし「教育」がその国の未来を築いていく上で最重要施策だとこの研修を通して実感することができました。今、目の前にいる子どもたちのために学校がそして自分ができることを精一杯取り組んでいこうとする気持ちがより一層強くなりました。

「我が校の教育実践」

仲間とともに　よりよい自分を求め続ける子

～算数科の授業改善を中心にしたよりよい人間関係づくり～

土岐市立肥田小学校

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

本校はよりよい人間関係を築くことで、学級が学ぶ集団として高まり、学び合いの質も高まると考えている。また、確かな学力を身に付けていくために、日々の授業で学び合いの質を高めていくことで、よりよい人間関係を築くことにつながると考えている。「学力」と「よりよい人間関係づくり」は、互いに補完し合い、この二つを大切にしていく必要があるととらえている。

児童の実態として、素直で優しい気持ちをもった子が多く、決められたことを果たそうとするよさがある。しかしながら、主体的に取り組もうとすることや、仲間とともにやり切ろうとすることに弱さが見られる。また、昨年度の県の学習状況調査の結果から、仲間と学び合いながら、自ら理解を深めていこうとする授業を充実していく必要があると感じた。

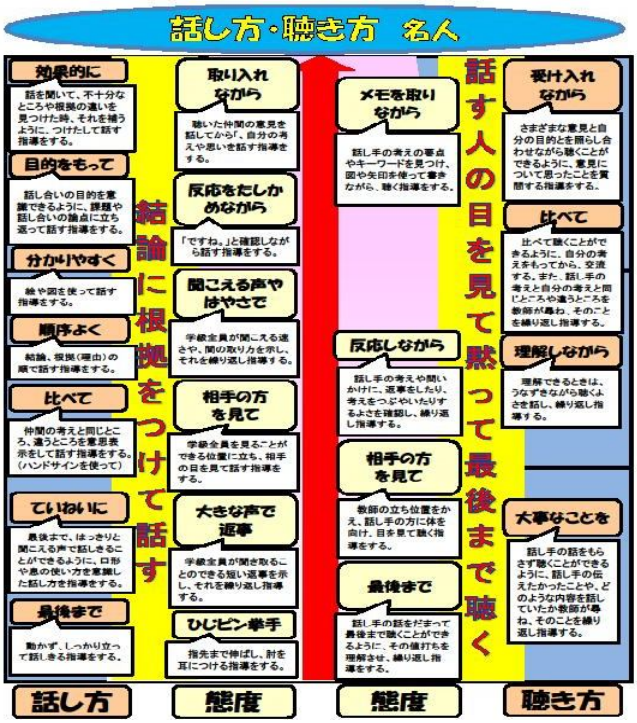
以上により、「算数科の授業改善を中心としたよりよい人間関係づくり」を切り口として、本研究テーマ「仲間とともに　よりよい自分を求め続ける子」を設定した。

Ⅱ　研究方法と研究の実際

本年度、取り組んだ主な研究実践を紹介する。

【研究方法１－①】
付けたい「聴く・話す力」と指導方法を明らかにし、それを基に指導・援助を行う。

互いに聴いたり、話したりしてコミュニケーションを図る中で、学級経営で大切なよりよい人間関係を築いていくことができる。そこで、本校では、学校生活の大半を占める授業の中において、よりよい人間関係づくりを達成していこうと考え、「聴く・話す力」と指導方法を明らかにしようと考えた。特に、「聴く・話す力」の指導として、①話す人の目を見て、黙って最後まで聴くこと、②結論に根拠をつけて話す（「～です。（わけは）～だからです。」）ことを柱にしている。それは、話す人の目を見て聴くということは、相手を大事にしている、信じているという心と心をつなぐ一番大切な思いやる姿であると考えているからである。授業の話合いでは、どこから考えたのかの根拠が大切になってくる。自分の考えを「～です。（わけは）～だからです。」と、結論に根拠をつけて話す話し方を身に付けることが、本時でねらう見方・考え方・感じ方まで高める基盤となると同時に、先入観にとらわれないで、事実に基づいて判断する力を養っていくことができると考えている。このことから、よりよい人間関係を築いていく土台として、以下の「聴く・話す力に関わる指導表」を作成した。**（図１）**



＜図１　聴き方・話し方に関わる指導表＞

【研究方法２－②】
言葉や数，式，図，表，グラフを関わらせて根拠を明らかにして考えたり，説明したりできる指導・援助を行う。

仲間とともに根拠を明らかにして考えたり、説明したりする活動を仕組み、考えを確かなものにできるようにした。全校研究会では、小集団活動として、ペア交流を位置付けた。この際、教師は、本時の内容に関わる指導・援助や児童のがんばりを価値付けていった。

第2回全校研究会　2年生「ひき算のひっ算」

【研究方法３－①】
自他のよさや可能性に気付くような評価を行う。

算数の自己評価カード、学級経営アンケート、Ｑ－Ｕの結果をもとに、自己肯定感や学級への所属感の低い児童に対して意図的に右のような価値付けをし、学級に広めていった。

・「今日は、～をがんばったね。がんばろうという思いが素敵だよ。」
・「前と比べて～ができるようになったね。○○さんが、がんばったからだよ。」
・「○○さんの発言のおかげで、学級のみんなが分かるようになったよ。」　など

Ⅲ　成果と課題

12 月に実施した児童への学級経営アンケートでは、５月のアンケート結果に比べて、学校は楽しいと感じる児童や授業が分かると感じる児童が増えてきた。これは、授業の中で、仲間の（考えの）よさを認め合ったり、違いを受け入れたりして、学びの質を高めてきたからだと考える。今後、さらに願う児童を育てていくために、研究を進めていきたい。

土岐市研究推進指定校 2年目の取組

土岐津中学校 研究主任 片田 誠

1 校内研究の目的と研究主題の見直し

本校では，校内研究の目的を「生徒の学力向上」と「教師の授業力向上」と捉えている。特に今年度は，若手教員の指導力向上を図るために，中堅・ベテラン教員が日頃から若手教員の授業を参観し，指導・助言をできる場を多く設定した。また，短時間で多くの意見を出し合い，討議がより深まるように，授業研究会にKJ法を取り入れた。このように，授業改善を話題とした関わり合いを増やすことによって，全職員が互いの指導力を高め合うことを目指してきた。

また，以下の2と教育の今日的課題，学校教育目標を踏まえて，本校の研究主題を見直した。

2 研究主題設定の理由

(1)昨年度までの研究の取組から

平成26，27年度 岐阜県教育委員会指定
「学力向上徹底プラン『小学校からの教科専門性向上新システムの開発事業』」

土岐津小学校と連携を図りながら，教師の教科専門性を高めていくことで，授業での指導が改善され向上することによって，児童生徒の学習意欲が高まると考えた。その結果として，学力が向上することを目指し，学習に関する組織や指導体制の見直し，授業改善を図った。

平成27年度 土岐市研究推進指定校1年目
研究主題『確かな学力を身に付ける生徒の育成』

上記取組の授業改善に焦点を当て，単元・学年間のつながりや学習内容の系統性を意識した指導計画を作成したり，授業の終末の活動を工夫したりすることによって，研究主題の具現化を図った。

(2)生徒の実態から

○基本的な学習姿勢が定着しており，与えられた課題や指示に対して，落ち着いて真面目に取り組む。
▲課題を解決するために，主体的に仲間と関わり合いながら粘り強く追究する姿が弱い。

(3)土岐市の教育方針と実践課題から

2つの実践課題に取り組むとき，次のことを意識した授業改善が必要だと考えた。

◆学び手の側に立つ学習指導の実現
→教師の一方的な教え込みではなく，生徒の実態を丁寧に見届け，活動を精選すること
◆仲間と関わり高め合う力の育成
→目的や方法等を明確にし，必然性のある関わり合いを位置付けること

3 研究主題

自ら追究し続ける生徒の育成

4 願う生徒の姿

常に課題意識をもち，課題が解決するまで仲間とともに主体的に粘り強く追究し，自分の学びを振り返り，改善しながら，さらに新しい課題を見つけることができる姿

5 願う生徒の姿に迫るために

(1)付けたい力

◇見通す力 ◇追究する力 ◇振り返り改善する力

(2)研究仮説

教師も生徒も見通しをもつことができる指導計画を作成し，生徒が主体的に仲間と練り合うことができる追究活動と，学びを振り返り，つなげるための評価活動を仕組めば，自ら追究し続ける生徒を育成することができるであろう。

6 実践

(1)【研究内容1】について

見通しをもつための指導計画の作成

教師が単元や単位時間の見通しをもつために，生徒の実態の見届けをし，ねらいや評価の観点を明確にした単元構想図を作成した。生徒も見通しをもつことができる方途を探っている。

(2)【研究内容2】について〔理科全研（11月）にて〕

主体的に仲間と練り合うための追究活動の在り方

必然的かつ主体的に仲間と追究するために，実験を行う場において，班内を2人ずつのペアに分け，2種類の違う実験を行う場を設定した。結果を同じ班の仲間と交流する場において，結果を伝え合い，「比較し考察することで，きまりを見つける」ように助言した。

(3)【研究内容3】について〔国語全研（9月）にて〕

学びを振り返り，つなげるための評価活動の工夫

作者の意図を読むために，まとめる場において，書き出しを統一し，その後の全体交流をする場において，教師が生徒の定着を見届けるとともに，生徒が書いたまとめを価値付けたり，まとめを見直すことができるように「まとめの視点」を与えたりした。

(4)【研究の土台】について

①全教育活動における日々の学習・生徒指導と援助の積み重ね

授業は日々の学級経営が基盤となると捉え，担任と生徒との信頼関係づくりを大切にしてきた。また，学習指導部と学習委員会の提案で「ALL5の観点」と「学習目標」を設定し，教科担任と生徒で授業づくりをしてきた。

②生徒自身が自己分析と目標設定をできる家庭学習の取組

田中博之教授（早稲田大学大学院）の家庭学習力アンケートとレーダーチャートを活用した。

③心の健康の自己理解と生活習慣の確立の推進

担任と養護教諭による学級活動やアンケートを実施した。生徒自身が日々の生活を振り返り，改善に役立てた。

④小中連携による授業改善や教科専門性の向上

公開授業が計画されている教科部は，小中合同教科部会を位置付け，指導案の検討をした。また，可能な範囲で公開授業や研究会にも参加した。

「確かな学力の育成」に関わって

学力向上への取組の成果

～市学力向上推進リーダーより～
駄知小学校　久野　雄司

右の【表1】は，現中学校３年生の平成25年度（小学校６年生時）と平成28年度の全国学力・学習状況調査の結果です。平成25年度，平成28年度ともに，すべての教科で岐阜県の平均正答率を下回っています。しかし，少しずつ，岐阜県の平均正答率に迫ってきていることがわかります。

現中学校３年生の平均正答率（%）

	平成25年度　全国学調 小学校６年生			平成28年度　全国学調 中学校３年生		
	土岐市	岐阜県	全　国	土岐市	岐阜県	全　国
国語A	▲	61.3	62.7	○	75.8	75.6
国語B	●	49.1	49.4	△	69.1	66.5
算数・数学A	△	76.2	77.2	○	63.5	62.2
算数・数学B	△	56.0	58.4	△	46.2	44.1

岐阜県平均正答率との差

▲：－3P以上　●：－3～－2P　△：－2～－1P　○：－1～０P

【表1】

さらに，右の【表２】は，現小学校６年生の平成27年度（小学校５年生時）の岐阜県学習状況調査の結果と平成28年度の全国学力・学習状況調査の結果です。こちらも，平成27年度，平成28年度ともに，すべての教科で岐阜県の平均正答率を下回っています。しかし，こちらも，少しずつですが，岐阜県の平均正答率に迫ってきていることがわかります。

現小学校６年生の平均正答率（%）

	平成27年度　県学調 小学校５年生		平成28年度　全国学調 小学校６年生		
	土岐市	岐阜県	土岐市	岐阜県	全　国
国語A	△	72.1	○	73.0	72.9
国語B	△	58.0	△	58.8	57.8
算数A	▲	65.6	△	77.2	77.6
算数B	△	43.9	○	46.2	47.2

岐阜県平均正答率との差

▲：－3P以上　●：－3～－2P　△：－2～－1P　○：－1～０P

【表2】

これらのことから，「土岐市の児童生徒の学力は着実に向上してきている」つまり，私たちが行ってきた学力向上への様々な取組が，このような結果を生み出してきたと捉えています。

土岐市内の各学校の学力向上に向けての取組を一部紹介します。

泉小学校では，「研究推進委員会」の名称を「学力向上推進委員会」に変更し，「研究主題」を「授業改善主題」としました。そして，「終末からの授業改善」に重点を置き，「できた，分かった」と学びが実感できる子を目指して取り組んでいます。また，課題を赤，まとめを青で板書に位置付けること，机列表を活用した授業展開をすること，重点的に指導する児童を決めて授業に臨むことを全職員共通指導事項として実践しています。

土岐津小学校では，教科担任制による学習指導を実施しています。また，小中合同教科部会を位置付け，９年間の学習内容の系統性や学び方の系統を明らかにしたり，教材研究や研究会への参加をしたりして，小中の連携を図っています。そして，教科の専門性を生かした教材教具の工夫や教材研究，授業研究などの研修が熱心に実施されており，職員の専門的な指導力の向上に取り組んでいます。

妻木小学校では，レディネステストや単元テストなどの誤答を記録し，児童の実態を分析しています。そして，それを毎時間のつまずきの予想や個に応じた手立てに生かしています。また，定着を図る練習問題に取り組む時間を15分間確保し，練習問題を吟味し，３段階に精選して実施しています。また，児童に見通しを持たせる工夫などをして，課題設定までの時間をスマートにしようと取り組んでいます。そのため，「できた，分かった」の実感を味わう児童が多くなっています。

こうした取組は他の学校でも実施されています。また，授業改善だけでなく，家庭学習や補充的な学習に取り組まれている学校もあります。

このように，土岐市内の全学校で，全職員による学力向上への取組が実施されています。そして，その取組の成果は，少しずつですが児童生徒の姿として現れてきています。児童生徒の学力向上という結果はすぐに出るものではありません。しかし，私たちが行っている取組は着実に児童生徒に力を付けています。これからも今の取組を継続していき，児童生徒の学力向上に向けて取り組んでいきましょう。

学力向上の取組から

平成２８年度「学力向上計画訪問」の実践紹介　　土岐市立肥田小学校

Ⅰ　学力分析などによる児童生徒の実態について

（H28 全国学力･学習状況調査結果と標準学力検査の結果より）

【テストの結果から】
・国語は、基礎・基本の定着の改善をしてきているが、「話すこと・聞くこと」に弱さが見られる。
・算数は、「数量や図形についての技能」を身に付けている一方で、「数学的な思考力」「数量や図形についての知識・理解」には、弱さが見られる。

【質問紙の結果から】
・家庭学習を行おうとする意識は高いものの、教科書を使って自ら学ぼうとすることや、諦めずにいろいろな方法で解こうとする意識は低い。

Ⅱ　分析の結果から、指導改善の重点について

（共通理解して取り組んでいること）

こうした実態をふまえ、どの子にも着実に学習内容を身に付けるようにすると同時に、学ぶ楽しさや喜びを感じることができるようにする必要を感じた。そこで、下記の指導改善を、全職員でどの教科でも行うように取り組んできた。

①聴く力と話す力を身に付けさせる
○話す人の目を見て、黙って最後まで聴く。
→相手の考え、何を伝えようとしているのかを理解しながら聴く。
○結論に根拠を結び付けて話す。
→単なる知識や技能の学習にせず、生きて活用できる力となるよう、その意味や原理・原則・法則などを確実に身に付けさせる。「なぜ、それでいいのか。」「なぜ、そうなるのか。」根拠を示し説明したり、根拠をもって理解したりすることができるようにする。

②授業の課題（めあて）とまとめの明確な授業
○授業の課題（めあて）を明確にする。
→学習活動に見通しをもたせる。教師は付ける力や出口を明確にもち指導をしていく。授業の目標（めあて・ねらい）を明確にし、板書に位置付ける。
○まとめ・定着状況を見届ける。
→授業の終末に、本時の学習の定着をはかる活動を必ず行う。１０分から１５分は、定着問題を行う時間を確保する。また、一人一人が説明をする学習活動、学習した内容をまとめたり、書いたりする活動等を必ず行う。

③根拠をもって話し合う、一人一人が説明をする授業
○聴き合う関係に基づく協同的学び、探究的な学びを組織する。
→文章や表・図、グラフ、資料などを活用して、自分の考えやその根拠がもてるように、授業を意図的・計画的に行う。
→授業の中で、自分の考えや根拠を「書く活動」を位置付ける。

Ⅲ　学力向上計画訪問における研究授業の視点と具体的な指導・援助などの手立て

授業実践

単元名「比例と反比例」（小学６年生）

本時のねらい

比例する２つの数量の関係性を考える活動を通して、比例する２つの数量の関係を表すグラフは０の点を通る直線になるという特徴を理解し、グラフに表すことができる。

視点①（見通しをもって追究できるための指導・援助を行う。）

＜手立て＞

どの子もグラフをかき、特徴が見つけられるよう、表の値とｘ＝3.5の値を全体で確認しながら取って結び、その後、「このグラフは途中だから完成させて、グラフの特徴を見つけよう。」と発問した。

＜成果＞

０≦ｘ≦１のグラフを付け加えてかき、比例のグラフは原点を通るという特徴に多くの子が気付くことができた。

＜課題＞

ｘ≧６のグラフをかく児童が少なかった。児童の中に、「７もありそう。（ｘ＝７もグラフをかける）」と言った発言があったので、教師が「どうしてそう思うの。」と問い返すことで、グラフが続くという意識をもたせることができ、ｘ≧６のグラフをかく児童が増えたと考えられる。

視点②（言葉や数、式、図、表、グラフをかかわらせて根拠を明らかにして考えたり、説明したりできる指導・援助を行う。）

＜手立て＞

式とグラフを結び付けて考えたり、説明したりすることができるように、「どうして、Ｘ＝０のときＹ＝０のグラフになるの。」「ｘ≧６のときは、ロボットはどのように進みましたか。」と発問した。

＜成果＞

式や、デジタル教科書のロボットとグラフを結び付けて説明することで、原点を通る意味を理解することにつながった。

＜課題＞

グラフが伸び続けていることの意味が分からない児童もいたので、デジタル教科書のロボットの動きと関わらせて説明するよう発問をするとよかった。

Ⅳ　学力向上訪問で明らかになった成果（○）と課題（△）

○授業のねらいを明確にし、ねらいに迫ることができるように、自分の考えを表出するペア交流などの活動を位置付けたり、定着問題の時間を確保したりする重要性が明らかとなった。
○式や表などとグラフを関わらせて説明することで、思考力を高めたり、知識・理解を深めたりしていくことができることが明らかとなった。
△ねらいにより迫るために、児童の実態をつかみ、個に応じた指導・援助を工夫していく必要がある。

「私の教育実践」

認められることの喜びを意欲に

泉小学校附属幼稚園　副園長　水崎　慶秀

幼稚園教育における人的環境が果たす役割は極めて大きいです。人的環境は担任だけでなく、すべての人を指し、それぞれが重要な環境になっていると思います。そこで私が子どもに果たす役割を考えてみました。

私が子ども達とかかわる時に大切にしていることは『認めてあげる、褒めてあげる』ことです。教育のうえで基本的なことだと思っています。

子ども達が私のところに来て、「先生鬼ごっこしよ！」「早く走れる走り方教えて！」「カブトムシのこと教えて！」等と誘いに来てくれるので、そのような時は一緒に遊んだり、私にできることをしたりして、子ども達とのかかわりを大切にしています。その中で「先生、ありがとう！また遊ぼうね！」「また教えて！」と喜んでくれる子ども達の姿に出会うと、とてもうれしい気持ちになり、「次は子ども達のためにこんなことをしてあげたい！」という気持ちや「仕事がんばるぞ！」という意欲が沸いてきます。子ども達と一緒に遊び過ごし、同じ時間を共有していると、素晴らしい発見や感動を味わうことができ、子どもの良い姿をたくさん見つけることができます。このように、『認めてあげること、褒めてあげること』には相手をやる気にさせる力があります。私が子ども達からたくさんのパワーをもらっているように、私も子ども達にパワーを与えられる教師でありたいです。子ども達の良い姿を認め褒めていくことで意欲を繋げ、またその喜びを職員に伝え、共通理解をし協力して、一人一人の子ども達を見守り育てていくことが私の役割だと考えています。

「私の教育実践」

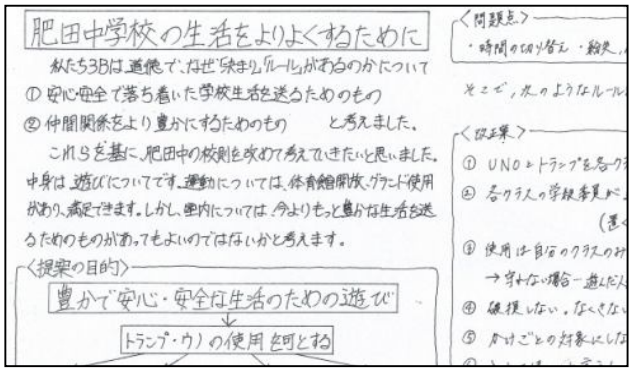
主　体　性　の　育　成

肥田中学校　教諭　石原　靖子

主体性の育成

“主体性”自分の意志、判断をもって行為を実行するような性質。国語辞典で調べると、このように記述されている。「自分の意志、判断」。非常に重い言葉のように感じる。自分で決めたことを実行に移す。責任は自分にあるのだ。肥田中学校の最大の課題、それが主体性の育成である。

３年生の道徳で、ルール・規則についての学習をした。よかれと思ってルールを破ったことで、小さな子どもの命が危険にさらされる。果たして、ルールとは…といった内容である。「誰かのために破るのは悪いことではない。」「何かあるかもしれないということを想定して作られたルールは何があっても守らなければならない。」など様々な意見が出てきた。その発展として、学校でのカードゲームの利用について考え、提案することにした。


肥田中学校の生活をよりよくするために

私たち3Bは道徳で、なぜ「決まり」「ルール」がある分かについて

① 安心・安全で落ち着いた学校生活を送るためのもの

② 仲間関係をより豊かにするためのもの　と考えました。

これらを基に、肥田中の校則を改めて考えていきたいと思いました。中身は遊びについてです。運動については、体育館開放、グラウンド使用があり、満足できます。しかし、室内については、今よりもっと豊かな生活を送るためのものがあってもよいのではないかと考えます。

〈提案の目的〉

豊かで安心・安全な生活のための遊び

↓

トランプ・ウノの使用を可とする

〈問題点〉

・時間の切り替え・終決…

そこで、次のようなルール

〈提案〉

① UNOとトランプを各クラ

② 各クラスの学級委員に

③ 使用は自分のクラスのみ

→守らない場合一遊んだ人

④ 強奪しない。なくさない

⑤ かけごとの対象にしな

上の企画書を生徒議会に提案し、現在全校で考えている最中である。どのような結論に至るかはわからないが、学級で話し合い、全校が一緒になって考えられたこと、ルールを自分たちのものとしてとらえられるようになったことが、何よりの成果である。今後も、自分たちの生活は、自分たちで考え、決定し、その決定に責任をもつ生徒の育成に向けて、学校態勢で取り組んでいきたい。

「心にひびく言葉」

長く続くものには価値がある

土岐津中学校　校長　田中　慎一郎

土岐津中学校のグランドに面する山肌には、「伝統高める土岐津中」の一文字一文字が刻まれた特大のプレートが埋め込まれている。校長室からグランドを眺める度に、その文字が目に飛び込んでくる。

土岐津中学校に脈々と受け継がれていることの１つに、長崎への修学旅行がある。２０００年より始まり、今年度で１７年目を迎える。本年度は春先に熊本を襲った大地震により、行先を変更するか実施時期を延期するかの選択を迫られた。いろいろ迷ったあげく１０月への延期としたが、いよいよ行く段になると、今度は沖縄に特別警報を出すほどの巨大台風１８号が接近。計画されている活動の中止や往復の交通手段の運休・欠航の心配が生まれた。大きなリスクを覚悟しての出発となった。

始終台風の進路や気象警報等の情報収集に明け暮れた３日間であったが、幸いなことに計画のほんの一部分が実施できないだけで無事終えることができた。それ以上に嬉しかったことは、私自身長崎へ行くのも初めて、ましてや長崎への修学旅行も初めてであったが、自分の想像を超える魅力ある修学旅行であることに気付かされたことだ。歴史を見つめ、平和を考え、自然や文化、風土に触れる。近代日本の扉を開いた街を通じ、異国に思いを馳せ、未来の日本に夢を描く。

長く続くものにはそれなりの価値がある。平和・歴史・文化・風土・社会の深い部分にまで根ざした活動だけに、その値打ちの大きさと受け継がれることの意味を強く実感するものであった。

掲　示　板

～おめでとうございます！～

◇平成２８年度 第５７回県学校歯科保健優良校表彰入賞校

【中規模校】《特選校》肥田小学校　《県一位》土岐津小学校
《優良校》妻木小学校　《奨励校》駄知小学校・泉西小学校

◇平成２８年度 東濃地区学校図書館教育賞入賞校

《優秀賞》妻木小学校（利用指導）

◇平成２８年度 岐阜県青少年読書感想文コンクール受賞者

《最優秀賞》加納　慎太郎（下石小３年）全国コンクールに出品
《県学校図書館協議会賞（ＳＬＡ賞）》
渡辺　瑛斗（肥田小１年）　野村　優太（泉小４年）
河内　　杏（濃南中３年）

◇２０１６年 岐阜県発明くふう展受賞者

《発明協会会長奨励賞》柳生　泰杜（妻木小３年）全国展に出品
《奨励賞》塚本　ひより（肥田小６年）　安藤　耕平（下石小６年）
《努力賞》齋木　凌拳（肥田中２年）